

6月7日のウクライナ情報

安齋育郎

① 【緊急ライブ】核戦争の前兆か？反バイデンのスコット・リッター氏がパスポート没収【及川幸久】【Breaking News】(2024年6月4日)

<https://youtu.be/3lv-qgRo38>



<https://www.youtube.com/watch?v=3lv-qgRo38>

② NATO はウクライナによるRUロシア奥地への攻撃の計画と認可に 100%関与している(2024年6月4日)

アメリカ、イギリス、そして他の NATO 同盟国はウクライナが西側諸国から購入した長距離ミサイルを使ってロシア国内の標的を攻撃することを禁止する正式な制限を解除した。これより戦争の直接関与を否定できなくなった。



<https://x.com/Reloaded7701/status/1797966525871391060?s=09>

③ 臓器抜かれた息子(兵士)の遺体を受け取った母親達

「上へ書いて隠蔽され、情報は削除されます。

私たちはキエフ全体、すべての都市を対象に調査求めます。

私たちは一人ではありません、臓器を持たずに帰還した兵士何人もいます

臓器なしで！」

<https://x.com/i/status/1797966922090422421>



<https://x.com/Mari21Sofi/status/1797966922090422421?s=09>

④大統領候補のロバート・ケネディ・ジュニア氏は、ロシアとの核戦争が始まったら最初の20分で9000万人のアメリカ人が死亡すると述べた(2024年6月5日)

ロシアは我が国よりも2,500基多い核ミサイルを保有しており、ロシアの防衛システムは我が国よりも優れています。彼らは米国をも圧倒する兵器を持っている。ウクライナにおけるこれらすべての攻撃が失敗に終わったのはそのためだ。ロシア人は軍事装備の洗練さと能力で世界を驚かせてきたからである。認めるのは本当に恥ずかしい

ケネディ大統領はテキサス会議後のインタビューでこう語った。

同氏によると、国防総省はロシアとの核戦争が起こった場合に何が起こるかについて研究を行っていたという。同氏は、紛争開始から最初の20分以内に9,000万人のアメリカ人が死亡し、6か月以内にさらに9,000万人が死亡すると結論づけた。

<https://x.com/i/status/1798166725885915447>



<https://x.com/w2skwn3/status/1798166725885915447?s=09>

※安斎注:あんまり「核戦争が起こると大変だぞ」ということを声高に吹聴することには警戒的な安斎だが、そういうことが起こらないために何をしなければならないかを提起して貰いたいですね。

⑤ NATO 首脳、NATO 拡大がロシアのウクライナ侵攻の鍵だったと認める(2023年9月20日)

NATO 拡大に対するアメリカの執着は、極めて無責任で偽善的だ。そして今、ウクライナ人は恐ろしい代償を払っている。

ジェフリー・D・サックス

悲惨なベトナム戦争の間、アメリカ政府は国民をキノコ農場のように扱い、暗闇に閉じ込め、肥料を与えたと言われています。英雄的なダニエル・エルズバーグは、真実に当惑する政治家を守るために、戦争について嘘をつく容赦ないアメリカ政府を記録したペンタゴン・ペーパーズを漏らした。それから半世紀が経ち、ウクライナ戦争で糞尿はさらに高く積み上げられた。

アメリカ政府と、いつも卑屈なニューヨーク・タイムズによれば、ウクライナ戦争は「挑発されていない」と、タイムズ紙が好んで形容詞で表現している。プーチンは、自分をピョートル大帝と間違えて、ロシア帝国を再建するためにウクライナに侵攻したとされています。ところが先週、NATO のイェンス・ストルテンベルグ事務総長は、ワシントンの失言を犯し、うっかり真実を口走った。

ストルテンベルグは欧州連合議会での証言で、戦争の本当の原因は、戦争が今日も続いている理由であり、NATO をウクライナに拡大しようとするアメリカの執拗な圧力であることを明らかにした。ストルテンベルグ氏の明白な言葉はこうだ。

「その背景には、プーチン大統領が 2021 年秋に、NATO にこれ以上 NATO を拡大しないことを約束する条約草案を NATO に署名させると宣言し、実際に送付したことです。それが彼が私たちに送ったものでした。そして、ウクライナに侵攻しないための前提条件でした。もちろん、私たちはそれに署名していません。

逆のことが起こりました。彼は我々に、NATO を決して拡大しないという約束に署名することを望んでいた。彼は、1997 年以降に NATO に加盟したすべての同盟国、つまり NATO の半分、中欧と東欧の軍事インフラを撤去し、NATO を同盟のその部分から排除し、ある種の B 級、つまり二流加盟国を導入することを望んでいました。私たちはそれを拒否しました。

そこで彼は、NATO を、さらに NATO を、国境近くで阻止するために、戦争に突入した。彼は正反対のことを言っているのです」

繰り返すが、彼[プーチン]は、NATO を、より NATO を国境近くで阻止するために戦争をしたのだ。

ジョン・ミアシャイマー教授や私や他の人たちが同じことを言うと、私たちはプーチン擁護者として攻撃された。同じ批評家連中が、偉大な学者で政治家のジョージ・ケナンや、元駐ロシア・アメリカ大使のジャック・マトロックやウィリアム・バーンズなど、多くのアメリカ有力外交官が長らく明言してきた、NATO のウクライナ拡大に対する悲惨な警告を隠すか、きっぱりと無視することを選んでいる。

現在 CIA 長官のバーンズは、2008 年、駐ロシア・アメリカ大使で、「ニェットはニェットを意味する」と題するメモの著者だ。そのメモで、バーンズはコンドリーザ・ライス国務長官に、プーチンだけでなく、ロシアの政治階級全体が、NATO 拡大に反対していると説明した。メモがリークされたからこそ、そのメモについて知っているのです。そうでなければ、私たちはそれについて暗闇の中にいるでしょう。

なぜロシアは NATO 拡大に反対するのか？ロシアは、黒海地域のウクライナとの 2,300 キロの国境で、米軍を受け入れていないという単純な理由からだ。ロシアは、米国が弾道弾迎撃ミサイル (ABM) 全廃条約を一方向的に破棄した後、米国がポーランドとルーマニアにイージスミサイルを配備し

たことを高く評価していない。

ロシアは、アメリカが冷戦中(1947-1989年)に70回以上の政権転覆作戦を行い、その後も、セルビア、アフガニスタン、グルジア、イラク、シリア、リビア、ベネズエラ、ウクライナなど、数え切れないほどの政権転覆作戦を行ったという事実を歓迎していない。また、ロシアは、多くのアメリカ有力政治家が、「ロシアの脱植民地化」という旗印の下で、ロシアの破壊を積極的に主張している事実も気に入らない。それは、ロシアが、テキサス、カリフォルニア、ハワイ、征服したインディアン土地や、その他多くのものを、アメリカ合州国から排除するよう要求するようなものだ。

ゼレンスキーのチームでさえ、NATO 拡大の追求がロシアとの差し迫った戦争を意味することを知っていた。ゼレンスキー政権下でウクライナ大統領府顧問を務めたオレクシー・アレストビッチ氏は、「99.9%の確率で、NATO 加盟の代償はロシアとの大戦争だ」と宣言した。

アレストビッチは、NATO の拡大がなくても、ロシアは数年後にウクライナを占領しようとするだろうと主張した。しかし、歴史はそれを裏切っています。ロシアは何十年にもわたってフィンランドとオーストリアの中立を尊重し、差し迫った脅威はなく、ましてや侵略はなかった。しかも、1991年のウクライナ独立から、2014年にアメリカが支援するウクライナの選挙で選ばれた政府を打倒するまで、ロシアはウクライナ領土の奪取に関心を示さなかった。2014年2月、アメリカが断固として反ロシア、親NATO 政権を樹立した時、ロシアは、クリミアの黒海海軍基地(1783年以来)がNATO の手に落ちることを懸念して、クリミアを取り戻した。

その時でさえ、ロシアはウクライナに他の領土を要求せず、領土に対するロシアの主張ではなく、ロシア系ドンバスの自治を求めた国連が支援するミンスク II 合意の履行だけを要求した。ところが、外交の代わりに、アメリカは、NATO 拡大を既成事実にするため、巨大なウクライナ軍を武装させ、訓練し、組織化するのを助けた。

プーチン大統領は2021年末、戦争を未然に防ぐための米 NATO 安全保障協定の草案をまとめ、最後の外交を試みた。合意草案の核心は、NATO の拡大とロシア近郊のアメリカ・ミサイルの撤去を終わらせることだった。ロシアの安全保障上の懸念は妥当であり、交渉の土台となった。しかし、バイデンは、傲慢さ、タカ派性、そして重大な誤算の組み合わせから、交渉をきっぱりと拒否した。NATO は、NATO 拡大に関して、NATO はロシアと交渉しないという立場を維持し、事実上、NATO 拡大はロシアの関心事ではないと主張した。

NATO 拡大に対するアメリカの執着は、極めて無責任で偽善的だ。アメリカは、1823年のモンロー主義以来、アメリカが主張してきた西半球のロシアや中国の軍事基地に包囲されることに、必要ならば戦争によって反対するだろう。しかし、米国は他国の正当な安全保障上の懸念に盲目で耳を貸さない。

そう、プーチンは、ロシア国境近くで、NATO を、NATO を阻止するために戦争をしたのだ。ウクライナは、アメリカの傲慢さによって破壊されつつあり、アメリカの敵であることは危険であり、その友人であることは致命的だというヘンリー・キッシンジャーの格言を再び証明している。ウクライナ戦争は、アメリカが、NATO のウクライナ拡大は、永久戦争とウクライナの破壊を意味するという単純な真実を認めた時に終わるだろう。ウクライナの中立性は戦争を回避できたはずであり、平和への鍵であり続けている。より深い真実は、欧州安全保障協力機構(OSCE)が要求する集団安全保障に依存しており、NATO の一方的な要求ではないということだ。

記事全文は Common Dreams に掲載されたものです。

<https://www.jeffsachs.org/newspaper-articles/nato-chief-admits-expansion-behind-russian-invasion>

⑥ イタリアのサルビーニのマクロンへの警告(2024年6月5日)

「イタリアのサルビーニ副首相は選挙前のイベントで『マクロンに言いたい。ウクライナに行って戦えと。ヘルメットをかぶり、イタリア人を騙すな』と語った。彼によれば、マクロンのような扇動者が多すぎるという。彼は、フランス大統領の言うことを聞けばイタリアにとり悪い結末になると信じている。」



<https://x.com/GyotokuShogi/status/1797970169865949338?s=09>

〈関連情報〉

【イタリアから NATO 事務総長へ】

マッテオ・サルビーニ閣僚評議会副議長:NATO のストルテンベルグ事務総長は、ソフィア(ブルガリア)で、イタリアやヨーロッパの武器でロシアを叩き、ロシア人を殺害しなければならないと繰り返し言い続けている。この男は危険だ。

https://x.com/Kumi_japonesa/status/1798116442719784982?s=09

※安齋注:2018年6月1日、サルヴィーニはジュゼッパ・コンテ政権の副首相兼内務大臣に就任、翌日から移民対策に乗り出し、「チュニジアが犯罪者を輸出している」と発言して外交問題を起こした。移民政策をめぐる一連の騒動について、フランスのマクロン大統領が「無責任な対応」と批判すると、コンテ首相は「偽善的な発言」と反論、サルヴィーニ自身もマクロンにイタリアへの謝罪を要求した。2019年8月、連立政権内の対立が激化してきたことを理由にサルヴィーニは早期解散総選挙を要求、コンテ首相がこれを拒否したため、サルヴィーニは連立離脱を表明し、内閣不信任決議案を提出、連立相手の五つ星運動はこうした動きを非難し、連立政権が事実上崩壊した。2022年10月22日に発足したジョルジャ・メローニ内閣で副首相兼インフラ担当大臣に就任した。

このあたりのイタリア情勢についてはイタリア在住の横田早苗さんに一言コメントをお願いしたいです。

⑦ スコット・リッターのパスポートはなぜ押収されたのか？(ラリー・ジョンソン、2024年6月5日)

スコットは今日、講演が予定されているサンクトペテルブルグ国際経済フォーラムに出席するため、JFK 空港で飛行機に乗った。このフォーラムには 25,000 人が出席する。米当局は彼のパスポートを不法に押収し、飛行機から強制的に降ろした。とんでもない。

※安齋注:自動翻訳機能でご覧下さい。

<https://youtu.be/gzO0FuYl-0g>



<https://www.youtube.com/watch?v=gzO0FuYl-0g>

⑧The Telegraph「NATO、欧州戦争に備え米軍を最前線に急送するための回廊を準備」(ザ・テレグラフ、2024年6月4日)

ウクライナを見て、米国が本気では助けてくれないことを悟った欧州が、何としても米国を巻き込もうと右往左往している印象です。それとも、欧州全土をウクライナにしたいくてたまらない連中が存在するのか。

NATO は、ロシアとの大規模な欧州地上戦が発生した場合に、米軍と装甲部隊を前線に急送するための複数の「陸上回廊」を準備している。

当局者はテレグラフ紙に対し、米軍兵士は 5 つの港のうちの 1 つに上陸し、モスクワからの攻撃の可能性に対抗するために事前に計画された兵站ルートに沿って移動するだろうと語った。

これは、西側諸国政府が今後 20 年間にロシアとの紛争に備える必要があると NATO のトップリーダーたちが警告する中での発表である。

NATO 首脳らが昨年、リトアニアのビリニウスで開かれた首脳会談で、同盟防衛のために 30 万人の兵士を即応態勢に整えることで合意して以来、兵站ルートは重要な優先事項となっている。

既存の計画では、米軍はオランダの港に上陸し、列車に乗ってドイツを経由してポーランドへ移送される。

ロシアが NATO に侵攻した場合、米軍はロッテルダム港に輸送され、その後東方へ輸送される。

しかし、地上通信線がモスクワ軍によって遮断されないように、他の港へのルートを拡大する準備も水面下で進められている。

NATO の海兵隊後方支援司令部のアレクサンダー・ソルフランク中將はテレグラフ紙に「ウクライナはロシアの後方支援システムに対する長距離ミサイル攻撃で大きな被害を受けている」と語った。

オランダから進入する NATO 軍がロシアの爆撃を受けたり、北ヨーロッパの港が破壊されたりした場合、同盟はイタリア、ギリシャ、トルコの港に焦点を移す予定だ。

イタリアの港からは、米軍部隊をスロベニア、クロアチアを經由して陸路でウクライナと国境を接するハンガリーに輸送できる。

トルコとギリシャの港からブルガリアとルーマニアを經由して同盟の東側に到達する部隊輸送の同様の計画もある。

また、バルカン半島の港やノルウェー、スウェーデン、フィンランドを經由して軍隊を輸送する計画も策定されている。

これらの回廊では、各国の軍隊は現地の規制に縛られることなく、通常の制限なしに荷物を自由に輸送できる。

フランス政府は以前、ロシアによる侵攻の脅威のための新たな計画の一環としてルーマニアに配備しようとした自国の戦車が、官僚的な手続きによって外国国境で足止めされていると不満を漏らしていた。

過去 5 年間、Jsec は NATO に代わって調査を実施し、ロシアの侵攻に対抗するために部隊を輸送するのに使用できるさまざまなルートを探してきた。

オランダ、ドイツ、バルティス諸国などの北ヨーロッパの港は、ロシアのミサイル攻撃に特に脆弱であると考えられている。

ソルフランク中将は「必要な耐性、つまり堅牢性、予備、冗長性が存在するようにすべてが構築されている」と述べた。

しかし、NATO は東側を守るために必要な防空能力の 5%しか持っていないと警告された後、Jsec 司令官は、主要な物流拠点を守るための地対空能力について懸念している。

「ウクライナにおけるロシアの戦争を観察し評価すると、ロシアがウクライナの兵站基地を攻撃しているのがわかった」と彼は語った。

「このことから、アフガニスタンやイラクで知られているような巨大な兵站基地は、紛争の早い段階で攻撃され破壊されるため、もはや不可能であることが明らかであるという結論に至らざるを得ない」

「防空に関しては…常に不足している。防空が十分にある状況は想像できない。これは、軍事原則が当てはまる良い例だ。『すべてにおいて強くなろうとすると、どこも強くなる』」。

<https://hara.livedoor.biz/archives/52339517.html?s=09>

⑨ウクライナで TV 放送中、照明が消えた



<https://x.com/i/status/1798204895830667635>

(ロシアの攻撃による電力不足と書いているアカウントがあるが)

この事をメディア『国の政治』が報じている。

「ゼレンスキーは「我々は民衆と同じように生きている」ことを示す寸劇をした。テーブルだけが光りカメラやマイクも止まらなかった」

※投稿者コメント:要はクソ芝居

<https://x.com/tobimono2/status/1798204895830667635?s=09>

⑩アメリカ空軍の動き(2024年6月4日)

米空軍の地球規模攻撃軍団は、6月4日と6日の2回、米ヴァンデンバーグ宇宙軍基地で大陸間弾道ミサイル「ミニットマン III」の発射実験を行う。実験はウクライナでの代理戦争と、ロシアとNATOの緊張激化する中で行われるものの、スプートニクが取材した観測筋らは、パニックになるほどのものではないと語っている。

国際・軍事問題に詳しいアール・ラスムセン退役米陸軍大佐によれば、ミニットマン III の試験発射は過去50年間で300回以上実施されている。

「定期的に行われるルーティン的な訓練で、特別なことは何もないと思う」

ロシアの功労軍事ジャーナリストで、『文学新聞』のアレクセイ・ボルゼンコ副編集もラスムセン氏と同じ見解を示している。

「これは、米国の核弾頭発射ミサイルの監査だろう。実際、米国はかなり長い間ミサイル発射実験を行っていない」

ボルゼンコ氏は、ロシアは準備態勢の確保のために、戦略ミサイルのテストは年平均1、2回は実施していると指摘している。

ボルゼンコ氏はまた、ミニットマン III の老朽化について言及している。

「米国は、自分らが保有しているものに手をこまねている。これらのミサイルの多くは非常に古く、その開発は70年代から80年代まで遡る。したがって、彼らはこのミサイルをテストし、新しいミサイルによって徐々に核戦力の近代化を図りたいだけだ」

ボルゼンコ氏は、今回の打ち上げをロシアは懸念すべきかという問いには、少なくともある程度は懸念があると答え、その理由として、米国は長年、放置していた分野に立ち戻り、「核ミサイルを整えておく」ために武器庫の近代化を開始したと説明した。



<https://sputniknews.jp/20240604/iii-18551321.html>